

新しいインフルエンザ検査(nodoca)導入のお知らせ

この度、新しいインフルエンザ検査として AI 搭載インフルエンザ機器 nodoca を導入しました([アイリス HP: https://aillis.jp/](https://aillis.jp/))。

nodoca は痛みが少なく判定開始から数秒～十数秒で判定結果が得られるインフルエンザ検査機器です。症状の問診、咽頭の画像を元に、インターネット上(nodoca-cloud)でインフルエンザか否かの診断をします。



ただし検査適応と利点、注意点があります。

① 6歳以上であること。

6歳未満のお子様に関しては、臨床試験上、有用性が確立していないため、抗原検査となります。

② 口を大きく開けることができること。

上記画像のように、喉(咽頭後壁)の画像を撮影するため、口を大きく開ける必要があります。

よって口の検査が苦手な方(咽頭反射が強い方)は検査困難です。

年齢的には小学校高学年以降から可能かもしれません。

●利点

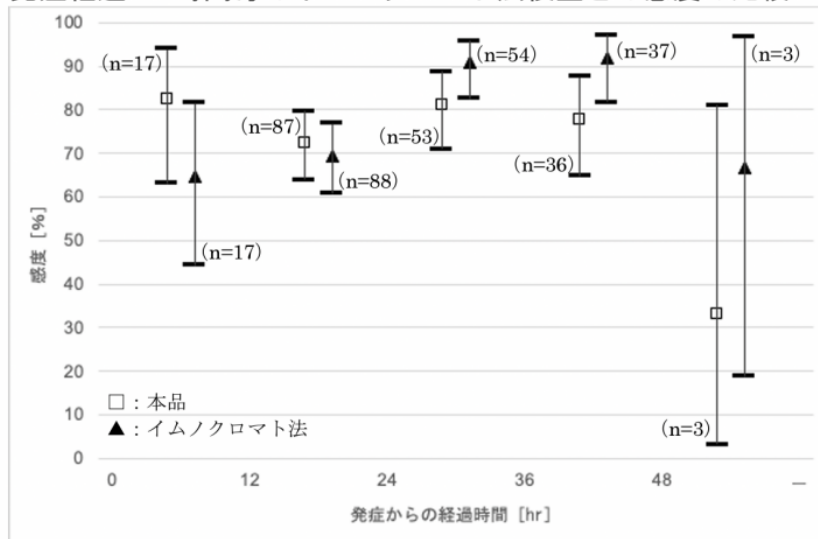
1)痛くない

従来の鼻咽頭に綿棒を入れる抗原検査に比べ、痛みが少ないです。

2)早期診断に適している

従来の迅速検査キットでは、発熱初期(24 時間以内)の検出感度が悪いと言われていましたが、下記の通り、発熱初期でも 80%程度の検出感度が得られています。

発症経過 12 時間毎のイムノクロマト法検査との感度の比較



●注意点

1)インフルエンザウイルスの有無は判定可能ですが、**A 型か B 型の判別はできません。**

診断精度は 100%ではなく、約 80%とされています(従来の抗原検査と比較し劣りません)。

2)発症から時間が経過すると、感度が低くなる可能性があります。**発熱後 24 時間以上経過した方は、従来の検査方法(鼻咽頭ぬぐい液を採取する抗原検査)をお勧めすることがあります。**

・コロナ抗原検査も同時に希望される場合は**綿棒による抗原検査**となります。

・**同じ日にインフルエンザ抗原検査と nodoca による検査はできません。**

・個人情報は、匿名化してクラウド上にアップされます([匿名加工情報の作成・提供に関する公表](#)

<https://publication.data-anonymization.jp/3110311556/information.pdf>)。

上記をご理解いただいた上で検査を施行しますが、ご本人に合った検査を提案させていただくこともあります。